

ヒラリー・ハーン

ヴァイオリン・リサイタル

Hilary Hahn Violin Recital

アンドレアス・ヘフリガー (ピアノ)

Andreas Haefliger, Piano

2023年6月5日(月) 19時開演

東京オペラシティ コンサートホール

7:00p.m., Monday, June 5, 2023 at Tokyo Opera City Concert Hall

主催: ジャパン・アーツ

協力: ユニバーサル ミュージック

Message

日本に帰ることができて本当に幸せです。みなさんと音楽を共有することを恋しく思っていました！
皆さんがお元気であることを願っています。演奏会を楽しんでいただけますように。 ヒラリー・ハーン

I'm so happy to be back in Japan. I've missed sharing music with the fans here! I hope you are doing well, and I wish you a wonderful concert experience. Hilary Hahn

Program

ベートーヴェン：

L. v. Beethoven

ヴァイオリン・ソナタ 第9番 イ長調 Op.47「クロイツェル」

Violin Sonata No.9 in A major, Op.47 "Kreutzer"

第1楽章：アダージョ・ソステヌートープレスト	1st Mov.: Adagio sostenuto - Presto
第2楽章：アンダンテ・コン・ヴァリアツィオーニ	2nd Mov.: Andante con Variazioni
第3楽章：プレスト	3rd Mov.: Presto

* * *

ヴァイオリン・ソナタ 第10番 ト長調 Op.96

Violin Sonata No.10 in G major, Op.96

第1楽章：アレグロ・モデラート	1st Mov.: Allegro moderato
第2楽章：アダージョ・エスプレッシーヴォ	2nd Mov.: Adagio espressivo
第3楽章：スケルツォ アレグロ	3rd Mov.: Scherzo. Allegro
第4楽章：ポコ・アレグレット	4th Mov.: Poco Allegretto

ヒラリー・ハーン 2023年日本公演スケジュール

6/3 (土) [西 宮] 兵庫県立芸術文化センター KOBELCO大ホール	主催：兵庫県立芸術文化センター
6/4 (日) [名古屋] 愛知県芸術劇場コンサートホール	主催：CBCテレビ
6/5 (月) [東 京] 東京オペラシティ コンサートホール	主催：ジャパン・アーツ
6/6 (火) [水 戸] 水戸芸術館コンサートホール ATM	主催：公益財団法人 水戸市芸術振興財団

Profile

ヒラリー・ハーン (ヴァイオリン)

Hilary Hahn, Violin



©OJ Slaughter

グラミー賞3度獲得のヴァイオリニストヒラリー・ハーンは、表現力のある音楽性と技術的な専門知識を、多様なレパートリーと融合させている。彼女のクラシック音楽に対する姿勢と、自身の経験を世界中の人々と分かち合おうとする覚悟が、ファンを掴んでいる。

2017年に立ち上げたインスタグラム・プロジェクト「100日間の練習(100 Days of Practice)」では、自身が練習している様子を撮影した動画を投稿した。このように舞台裏での練習をファンに公開することは、これまで彼女とファンとの間にあった、音楽の創作過程における垣根を取り払うことを目的としている。2017年にこのハッシュタグを作ってから、ハーンはこのプロジェクトを自分のハンドル @violincaseで4度完結させている。演奏者仲間や学生達はこのハッシュタグのもとに80万近くの投稿を寄せた。

これまで多数レコーディングを行っており、様々な聞雑誌の批評家賞を受賞している。2003年のブラームスとストラヴィンスキーの協奏曲、2008年のシェーンベルクとシベリウスの協奏曲、2013年の「27の小品：ヒラリー・ハーン・アンコール」の3作がグラミー賞を受賞、「エイブルズ：アイソレーション・ヴァリエーション」は、2022年第65回グラミー賞の最優秀クラシック器楽独奏部門にノミネートされた。2021年の録音「パリ」では、彼女のために書かれたエイノユハニ・ラウタヴァーラによる「2つのセレナード」の世界初演録音、エルネスト・ショーソンの「詩曲」、1923年パリで初演されたセルゲイ・プロコフィエフのヴァイオリン協奏曲の第1番を収録。2022年「エクリプス(日食)」リリース。

2022/2023シーズンは、ベルギー国立管、シアトル響、フランス放送フィル、チューリッヒ・トーンハレ管、フィンランド放響、ニュージャージー響、ロッテルダム・フィル、カナダ国立芸術センター管、フィラデルフィア管、アトランタ響、シカゴ響、フランクフルト放響と共演、シカゴ響とは、サラサーテ「カルメン幻想曲」とアメリカ初演となるエイノユハニ・ラウタヴァーラ「2つのセレナード」のソリストとして出演。また、レラ・アウベルバハハとセルゲイ・プロコフィエフの作品集のリサイタルをロンドンとベルリンで行うほか、バッハの無伴奏リサイタルをロンドン、ニューヨーク、サンフランシスコ、ロサンゼルス、シカゴで行う。

第11回グラスヒュッテ・オリジナル音楽祭賞、2021年ヘルベルト・フォン・カラヤン賞、2023年ミュージカル・アメリカ誌の「アーティスト・オブ・ザ・イヤー」を受賞。現在は、シカゴ交響楽団とロンドンのウイグモア・ホールのアーティスト・イン・レジデンス、ディー・プ・ミュージックAIの共同創立者兼アーティスト・パートナーシップ担当VPである。

アンドレアス・ヘフリガー (ピアノ)

Andreas Haefliger, Piano



© Gianmaria Gava

アンドレアス・ヘフリガーは、スイスの名テノール歌手 エルンスト・ヘフリガーを父にもちドイツで育った。15歳でニューヨークのジュリアード音楽院へ入学、瞬く間に一流のピアニストとして認められ、ニューヨーク・フィル、クリーヴランド管、ロサンゼルス・フィル、ボストン響、ピッツバーグ響、シカゴ響、サンフランシスコ響などアメリカの主要オーケストラと次々に共演。ヨーロッパでもロイヤル・コンサートヘボウ管、ロッテルダム・フィル、ミュンヘン・フィル、ブダペスト祝祭管、ベルリン・ドイツ響、パリ管、ロンドン響、ウィーン響といった名だたるオーケストラと共演を重ねている。またルツェルン、エディンバラ、アスペンなどの音楽祭には常連アーティストとして招待され、ウィーン・コンツェルトハウス、ロンドンのヴィグモアホールにも定期的に出演。1988年にニューヨーク・デビューを果たし、今日優れたリサイタル・アーティストの一人として知られ、欧米、アジアなどで高い評価を得ている。

2019年のBBCプロムスで、彼と同じスイス人作曲家ディーター・アマンに特別に委嘱したピアノ協奏曲「グラン・トッカータ」を、サカリ・オラモ指揮／BBC響との共演で世界初演。同曲はスザンナ・マルッキ指揮／ボストン響と北米でも初演され、ウィーン響、ミュンヘン・フィル、台北市立響との共演のほか、ルツェルン音楽祭ではヘルシンキ・フィルと共演した。

2020年3月、コロナウイルスが発生したとき、ヘフリガーはスイス・アルプスの山小屋にいた。多くの演奏会の中止を余儀なくされたが、この期間を利用してベートーヴェンの記念碑的なピアノ・ソナタ第29番《ハンマークラヴィーア》に取り組み、その演奏とアルプスの環境を撮影したアートムービーを完成させた。この映画は映画館やテレビ局で取り上げられており、2020年のアスペン音楽祭では、予定されていたライブ・リサイタルの代わりにストーリーミングで世界初公開された。

ソニークラシカルよりモーツァルト、シューマンといったソロCDの他、デッカよりタカーチ弦楽四重奏団、バリトンのマティアス・ゲルネとのCDをリリース。ゲルネとのシューベルトの録音はドイツ・レコード批評家賞を受賞した。

2018年春、BISレコードより「パースペクティヴ」シリーズの最新盤をリリース。また2020年春には初のコンチェルトアルバム「アマン／ラヴェル／バルトーク：ピアノ協奏曲（スザンナ・マルッキ指揮／ヘルシンキ・フィル）」をリリースした。この時、ディーター・アマンのピアノ協奏曲「グラン・トッカータ」が世界初録音された。また、2022年秋には「ベートーヴェン：ピアノソナタ作品31」をリリースし、高い評価を得た。

平野 昭 (音楽評論)

Akira Hirano

ベートーヴェン Ludwig van Beethoven 1770–1827

ヴァイオリン・ソナタ 第9番 イ長調 Op.47「クロイツェル」

ジョージ・ボルグリーン・ブリッジタワー (1779~1860) は11歳のときからプリンス・オブ・ウェールズ公(後のイギリス国王ジョージIV世)のレジデンス、カールトンハウス専属のヴァイオリニストであった。インド=アフリカ系黒人の父(ハイドン楽長時代のエステルハージ侯爵家執事)とドイツ系ポーランド人の母との間に生まれた混血児で、少年期より楽才を発揮し神童ヴァイオリニストとしてヨーロッパ各地を演奏旅行。10歳の1789年12月5日にはウインザー城でイギリス国王の御前で演奏を披露し、翌1790年2月19日にはドゥルリー・レーン劇場で初めて公開演奏会を開催し、以後、ウェールズ公のお抱えとなる。

1802年春、23歳の時にウェールズ公から海外演奏旅行を許可され、チェリストの弟と共にまず母の住むドレスデンを訪れる。1803年3月18日にドレスデンでの最後の演奏会を済ませ、3月下旬にウィーンを訪れ、音楽愛好貴族カール・リヒノウスキーの仲介でベートーヴェンに紹介される。4月16日にはアウガルテン演奏会の主宰者でもあるヴァイオリニストのI.シュパンツィヒの家で行われたサロンコンサートに出演し、招待客のベートーヴェンの前で演奏している。このときにブリッジタワーの演奏会の日取りと初演する新作ソナタをベートーヴェンに委嘱することが決められたようだ。

ベートーヴェンは1年半前に作曲したOp.30の1「イ長調」ソナタ(第6番)の未使用のフィナーレを新しいソナタの第3楽章とすることを思いつき、新たに第1楽章と第2楽章を作曲したのである。自筆譜には駄洒落に満ちた献辞「大変人の混ぜ物作曲家(compositore mulattico ムラッティコ)である混血児(Mulatto Brischdauer ムラット)のプリシュダウアー(ブリッジタワーを訛ってこう呼んでいたようだ)のための混ぜこぜ(Sonata mulattica ムラッティカ)ソナタ」と記されている。ベートーヴェンは機嫌のよい時、友情や親愛の徴として駄洒落を使うことが多く、この時点ではブリッジタワーに献呈するつもりであったことが窺える。しかし、結果的にはパリ音楽院ヴァイオリン科教授である旧知のロドルフ・クロイツェル(1766~1831)に献呈されている。「クロイツェル・ソナタ」の愛称の由縁である。真相は不明だが、ブリッジタワーによれば「ひとりの若い女性をめぐってベートーヴェンと喧嘩になり、仲違いしたままウィーンを去った」ということだ。

第1楽章 序奏部：アダージョ・ソステヌート イ長調 4分の3拍子～主部：プレスト イ短調 2分の2拍子 序奏付きソナタ形式。

ヴァイオリンの独奏で始まる初めてのソナタ。分厚い和声のヴァイオリンに対し、ピアノも広い音域を駆使してオーケストラ・トゥッティのような響きでこれを受ける。ふたつの楽器が対等に扱われて真に室内乐的二重奏で闘ぎ合いながら音楽を高揚させる。「イ長調」は序奏部だけで、主部は「イ短調」。

第2楽章 アンダンテ・コン・ヴァリアツィオーニ ヘ長調 4分の2拍子 変奏曲形式。

短調ソナタの常套として長3度低い穏やかな響きのヘ長調が設定されている。両端楽章の激情とは対照的な優美でロマンティックな変奏曲による緩徐楽章。主題と4つの変奏からなるが、第3変奏が同主短調のヘ短調によってメランコリックな翳りをみせる。

第3楽章 プレスト イ長調 8分の6拍子 ソナタ形式。

終楽章冒頭にはピアノによる主和音が力強く響き渡る。これは旧稿にはなく、新たに付け加えられたものだ。ヴァイオリンが躍動的なタランテラ舞曲による生気あふれる主題を呈示する。属調のホ長調でも基本的に同じ性格の主題が装飾を施して現れる。提示部後半に4分の2拍子の緩やかな流れのエピソードが現れて長いトリルでコデッタに進む。展開部では両楽器が主題断片で激しいやり取りをする。再現部には短いアダージョ楽句が二度にわたって進路障害として挿入されるが、それを乗り越えて力強いクライマックスのコーダとなる。

ヴァイオリン・ソナタ 第10番 ト長調 Op.96

前作「クロイツェル」からはほぼ10年ぶりの作品となるこのソナタは、1812年にウィーンを訪れたパリ音楽院初代ヴァイオリン科の3人の教授の1人ピエール・ロード(1774~1830)のために作曲された、と解説されることが多い。確かに、初演は1812年12月29日にウィーンのロプコヴィッツ侯爵邸でロードのヴァイオリンと、ベートーヴェンのパトロンにして唯一の作曲の弟子でもあるルドルフ大公(1788~1831)のピアノによって初演されている。しかし、ロードがウィーンに到着したのは12月になってからであり、この作品の作曲スケッチが同年2月から11月までになされている事実から考えれば、このソナタはロードからの委嘱とは無関係に作曲が進められていて、その後ロードからの依頼があって、12月になってロードの技量に合わせて書き直されたと考えられている。「クロイツェル」とは対照的に高度な技巧作品ではなく、中期から後期への移行期にあたる「カンタービレ様式期」の特徴を色濃く映し出したロマンティックな音楽となっている。

第1楽章 アレグロ・モデラート ト長調 4分の3拍子 ソナタ形式。

素朴なカンタービレ主題と明快な分散和音による和声的響きの変化を生かした明るい楽章。

第2楽章 アダージョ・エスプレッシヴォ 変ホ長調 4分の2拍子 リート三部形式、スケルツォヘアタッカ。

先ずピアノによって4声部書法で書かれた美しい響きの中にカンタービレな主題が歌われる。静かに閉じられた楽章終止はそのまま次楽章に続く。

第3楽章 スケルツォ アレグロ ト短調 4分の3拍子 複合三部形式。

同主短調によるため息音形で始まり、幾分憂鬱な表情を見せる主部と長3度低い変ホ長調によるオーストリーの農民舞曲レントラー風のトリオ部の陽気さがコントラストをなす。

第4楽章 ポコ・アレグレット ト長調 4分の2拍子 通変奏曲形式。

変奏の明記はないが、32小節の主題部のあとに連続的に8つの変奏とコーダが継起する。テンポをアダージョに緩めた8分の6拍子になる第5変奏のあと、テンポを戻して変ホ長調の間奏楽段が挿入される。第6変奏はト長調に戻るが、第7変奏でト短調となる。第8変奏は主題の回想と展開の後にプレストのコーダで高揚した終止となる。